

消化器内科後期研修カリキュラム

【一般目標】

消化器内科医として患者より信頼されうる診療を提供するために3年間のカリキュラムに沿って消化器内科診療に必要な知識、技能を修得するとともに、一般内科診療も実践できる医師となるために以下の研修を行う。

【行動目標】

1. 一般内科診療に必要な診断能力、検査、手技、治療法を修得する。
2. 消化器内科領域の検査の手技および診断に習熟する。
(消化管造影検査、消化管内視鏡検査、腹部エコー、腹部CT、腹部MRI、ERCP、PTC、肝生検、腹部血管撮影など)
3. 消化器疾患の各種治療手技をマスターする。(内視鏡的消化管腫瘍切除術、内視鏡的止血術、ERBD、EBD、EST、PTCD、RFA、TAEなど)
4. 他の消化器内科医との連携した検査、治療をスムーズに行えるよう努める。
5. 消化器内科専門医として必要とされる診断・治療能力を修得する。
6. 消化器末期癌患者に対する終末期医療の実態を経験し、実践でき得よう努力する。
7. 医師として患者および家族との対応能力を身につける。(インフォームドコンセントなど)
8. 消化器内科専門医として研修医、コメディカルを指導する能力を修得する。
9. 日本内科学会認定医受験および消化器病専門医受験に必要な要件を満たす。
(主治医として担当すべき入院患者の疾患分野：日本内科学会の認定医受験要件および日本消化器病学会の専門医受験要件を満たすように、幅広い分野の疾患を経験する。)

【方略】

1. 外来患者、入院患者を主治医として担当する。
2. 消化器内科担当医として上記の目標2. 3. に示した各検査・治療の定められた件数を経験する。
3. 症例検討会、CPCにて討議を行う。
4. 学会発表・論文発表を行う。
5. 指導医のもとで救急を担当する。

【評価方法】

項目	評価者	時期	評価法
担当した入院患者の疾患分野・症例数 指導医のもとで担当した救急の症例数	自己・指導医	2ヶ月	自己記録
担当した検査の分野・件数	自己・指導医	毎月	自己記録
学会発表・論文発表	指導医	毎年	口頭